

世帯と人口

(7月1日現在)

世帯 44,375 (+12)
 人口 119,315人(+57)
 男 60,927人(+36)
 女 58,388人(+21)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎(046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

父の代から下今泉でちょうちん文字を書き続けている蛭間さん



えびな模様…下今泉から

ちょうちん文字で地域支えて

祭りに映える職人の筆

夏祭りを彩るちょうちんは、見る者に郷愁を呼び覚まします。電灯が普及する以前には、ちょうちん作りやちょうちんに文字を書く仕事が普通に見られたといえます。仕事場でさまざまなちょうちんに囲まれているのは、下今泉在住の蛭間定一さん(77歳)。今では数少なくなった、ちょうちん文字のプロフェッショナルです。

昭和初期、下今泉に移り住んだ蛭間さんは、父親がちょうちん文字を書く姿を見ながら育ちました。蛭間さん自身も、父の仕事を受け継いで40年近くになります。字の巧拙はもちろんです。その配置が重要。ちょうちんの骨を丹目に見立て、大きさを字数でバランスを考えながら書きます。そう話す筆先からは、太く柔らかな文字が描き出されています。

蛭間さんが手にしているちょうちんは、下今泉はやし保存会から依頼されたもの。子どもたちのはやしの色に花を添えます。また、地域の盆踊りで使ったちょうちんは、2〜3年に1度入れ替えるため、その都度約500個を書き上げているとか。下今泉の祭りには、蛭間さんのちょうちんが欠かせない存在です。「昔の下今泉は90軒程度で、家庭の照明といえはちょうちんでした。父は、夜間の外出で持ち歩くちょうちんに家名や家紋を書いていました」と蛭間さん。当時と比較にならないほど住民が増え、お互いのつながりも薄くなったように見えますが、「地域の祭りは、世代を超えてみなさんが集まって来る場所。時折子どもを抱いた若い方が、ちょうちんを指さしている光景を見るときが一番うれしい」。以前は家庭の必需品だったちょうちんは、時代の推移とともに、住民同士のふれあいへ一役買うようになりました。

8月1日は、下今泉の鎮守・浅間神社の夏祭り。夕暮れから宵の口の境内では、蛭間さんの手がけたちょうちんが昔ながらの淡い光を放つことでしょう。

下今泉アラカルト

- ◎人口(7月1日現在)
2,567人
(男1,329人・女1,238人)
- ◎世帯
962世帯
- ◎面積
0.77平方キロメートル
【市全面積 26.48平方キロメートル】
- ◎地名の由来
常泉院境内の清水にちなんで古くから一帯を「今泉」と呼称し、元禄ごろ上・下に分かれたと伝えられる。平成12年8月、住居表示により下今泉一〜五丁目誕生。